

とっとりはんたいぼあとよどえだいはあと  
鳥取藩台場跡淀江台場跡（国指定史跡）

台場とは江戸時代の終わりごろに外国船の来襲に備えて全国各地に作られた砲台です。鳥取県内では岩美町の浦富、鳥取市の浜坂・賀露、湯梨浜町の橋津、北栄町の由良、琴浦町の赤崎、境港市の境、そして米子市淀江町の8か所に築られました。

ここ淀江町今津にある淀江台場跡は、江戸時代の末期である文久3年（1863）に築



かれたもので、現在は長さ約65m、高さ約5mの土塁が残っていますが、当時はこの土塁の両端がさらに翼のように伸びていて高さも3倍くらいあり、国産の大砲3門が備えつけられ、後で8門が増設されました。佐陀川の河口に標的を置いて射撃訓練を行っていた記録があり、大砲の射程距離は約4kmくらいありましたが、実際に外敵に向けて発砲されたことはなかったようです。

台場の様子（淀江台場ではありません）

今津の大庄屋でもあった松南宏年(徹翁)という人が、所有の田畑を砲台の敷地として無償提供し、砲台の築造は長崎で蘭学や築城法を学んで帰郷した長男宏元の設計によるものでした。淀江台場跡の特徴は、土地を提供した人、設計した人、守備する兵隊などすべてが松南宏年(徹翁)をはじめとする地元の人たちだったということです。ちなみにその松南宏年(徹翁)は、明治維新の戊辰戦争などで戦った兵士でもありました。

そんな歴史のある御台場ですが、昭和63年(1988)、国によって史跡に指定され、現在は遊具や東屋も設置され、お台場公園として親しまれています。



現在の淀江お台場公園